

令和4年度農業後継者特別支援事業

事業主体名 鹿児島県立農業大学校農学部野菜科

1 目的

「ぴかいちご」は平成30年に育成された品種で、現在、県内で普及推進中である。
 ぴかいちごは、1花房あたりの着果制限をすることで果実が大玉化し、収穫作業及び調整作業の省力化、収益性の向上につながるとの報告（鹿児島県農業開発総合センター）がある。そこで、ぴかいちごの摘果方法を検討し、その効果を明らかにする。

2 実施状況

(1)摘花時間調査(調査年月日:R4.12.6)

(単位:時間/1000㎡・人)

	5花区	10花区	15花区(※放任)
摘花時間	64	80	20

※なるだけ多く着花している株を選んだが、15花未満の株は放任とした。(10花区より花数は多い)
 5花区が最も長くなると予想されたが、実際には厳密に数える作業に時間を要し、今回の調査では10花区の摘花時間が最も長い結果となった。

(2)収量調査

階級別収穫個数

(単位:個)

収穫日	区	~S規格外	S	L	2L	3L	総個数	2L以上
12月27日 12月30日	5花区	4 (4%)	13 (15%)	36 (40%)	33 (37%)	3 (3%)	89	36 (40%)
	10花区	2 (2%)	14 (13%)	58 (52%)	35 (32%)	2 (2%)	111	37 (33%)
	15花区	3 (3%)	21 (20%)	60 (58%)	19 (18%)	0 (0%)	103	19 (18%)
3月14日 3月17日	5花区	1 (0%)	8 (3%)	76 (31%)	108 (44%)	54 (22%)	247	162 (66%)
	10花区	72 (19%)	70 (18%)	129 (33%)	78 (20%)	38 (10%)	387	116 (30%)
	15花区	97 (23%)	66 (16%)	126 (30%)	87 (21%)	48 (11%)	424	135 (32%)

※ ~S: 9g未満 S: 9~12g未満 L: 12~20g未満 2L: 20~30g未満 3L: 30g~

12月下旬収穫の総個数は10花区>15花区>5花区の順であったが、2L以上の個数は5花区と10花区は15花区より多く摘花の効果を確認できたが、5花区、10花区はほぼ同等であり、1番花房での10花が望ましいと考える。

3月中旬収穫の総個数は15花区>10花区>5花区の順で、2L以上の個数は5花区が最も多く、5花に制限することで果実の大玉化を確認できた。

今回の調査では、1番花房の摘花は1花房10花、2番花房の摘花は1花房5花が望ましいと考えられる。

3 今後の課題、取り組み

収穫調整作業時間の比較、経済性の把握、階級ごとの精度調査